

令和 4年度 園評価書

園番号

23 園名 静岡市立中田こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
すぎがいっぱい こども園	ときめきや ひらめきや 遊びや人と つながる	興味を持って試したり考えたり工夫したりして繰り返し遊ぶ	様々な素材、用具、自然物を遊びに取り入れ、繰り返し試したり工夫したりしてイメージしたものを形にして、作ったもので遊ぶ姿が見られる。保育者が子どものときめきやひらめきをキャッチし、関わったり瞬時の再構成を行ったりしたことで、遊びが継続し、展開していくようになった	A	A	製作を行う時のヒントとして本物を見てから考えるなど、素材・用具・自然物等を取り入れた工夫が、子ども達の「ときめき」「ひらめき」を引き出している。	子どものときめきひらめきから更に遊びの繋がりが広がりを考えて、子どもの育ちや遊びの展開に見通しを持つようにしていく。また、遊びが途切れることなく「もっとやりたい」「明日もやりたい」と繰り返し遊ぶ楽しさが感じられるよう、子ども達の遊びとことん付き合っていくことを大切にしている。
		様々な方法で思いを伝え合いながら、保育者や友達と一緒に遊ぶ	保育者に思いを受け止めてもらう経験を重ねる中で、安心して自分の思いや行動を言葉で表現して伝えたり、相手の思いを聞くようになった。月の振り返りで日々の手立てを検証したことで、保育者が“伝え合い”についてより意識して子どもたちに関わるようになり、言葉や表情で思いを伝え合いながら遊びを進めようとする姿に繋がった	A	A	子ども達の思いを伝える力がとても成長していると感じた。一人一人に丁寧に関わり、自分の思いや相手の思いを理解する関わり成果だと言える。	思いの伝え合いについては、子ども達の思いに寄り添う事で子ども達が安心して思いを表現し、相手の思いにも耳を傾けながら友だちと遊ぶ楽しさや味わえるよう、今年度の取り組みを継続し一人一人に合った思いの伝え方を知らせていく
		様々な運動遊びを経験し、楽しんだり挑戦したりする	学年ごとに発達を捉え、経験させたい活動について運動遊び表を作成したことで、保育者が見通しを持ち、生活導線の中で自然にやってみたくなる環境を整えるようになった。子ども達は繰り返し体を動かす面白さや楽しさを味わい、運動遊びを通して約束やルールを守ったり、友達や異年齢児から刺激を受け、意欲的に挑戦したりするようになった。	A	A	運動遊びについて系統的に整理し、職員全体で共通理解していることは素晴らしい。その運動遊びが生活の中で自然に取り組みできるよう、各所に工夫がなされていた。	年齢ごとに経験させた運動遊びについて、全学年で振り返り合わせて共通理解していることは素晴らしい。生活導線での運動遊びの環境を更に広げ、より多くの運動遊びが経験できるようにしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの思いを受け止め、応答的に関わる	子どもの表情や仕草から言葉にならない思いを汲み取り、子どもの気持ちに寄り添った言葉をかけたり見守ったりしようとする意識が高まった。子どもに向き合い、丁寧に関わりをすることで、子どもが安心して自分の方法で思いを伝えるようになった。また、職員会議や園内研修で月の振り返りから思いの伝え合いの場面を捉え、応答的な関わりについて話し合いを重ねた	B	A	子どもの思いを汲み取り、丁寧に関わっていることが分かる。様々な情報についても保育者同士で共有することが出来ている。時間のないうち、ノートを使ったり、短い時間の話し合いをしたりするなど、工夫して子どもの様子を伝え合うなど、勤務時間の違いを埋める工夫をしている。長時間保育においては、家庭的な雰囲気やゆったりとした時間を作り出している。	子どもの今の思いを捉えた教育保育の実現に向けて、子どもの様々な思いを受け止める気持ちについても、また、全職員で共通の思いを持って子どもに関わることを、園内研修やケース討議での話し合いを重ねていき、職員一人一人が子どもを見取る力を更に高めていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の家庭状況や生活スタイルに応じた生活や遊びの流れをつくる	A	A	季節や伝統的な行事を活かした環境作りの工夫はさすがと感ずる。道具も置き方も整って、整備されていると感じた。思わず運動したくなるような環境も用意されていた。	勤務時間の異なる職員間で確実に情報や伝え合い、共有することで一人一人に合わせた丁寧な関わりを継続して行っている。また、早番遅番保育について定期的な見直しを継続、コロナの感染状況を踏まえた上で学年を超えた関わりを取り入れて、家庭的な雰囲気の中で安心して生活できるようにしていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが主体的に取り組めるよう、取り出しやすい、片付けやすい環境を整える	A	A	片付けが遊びの一環となるような保育者の関わりや環境の工夫を継続して行っている。また、室内外の保育環境を職員間で見合い、意見を伝え合ったり園全体で教材研究を行ったりすることで、更に遊びを広げられる環境となるようにしていく	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な非常時を想定した避難の仕方を身につける	津波や水害を想定して避難場所の拡充を行い、中田小学校や大石公園での訓練を行った。また、一人一人が安全に身を守る行動が判断出来るように、様々な想定をした不審者訓練を行うことで防災に対する意識が高まっていった	A	A	今年度、中田小学校への垂直避難に取り組んだ。今後、全園児が避難することを想定して、学校側も対応していく必要がある。自治会にも園児が小学校へ避難してくることを意識し浸透させたい課題である。	引き継ぎ避難場所の拡充を行いながら、様々な災害を想定した訓練を積み重ねていく。合わせて応急手当やAEDの使用など職員も訓練を行い、実践力向上に努めていく。不審者訓練では、訓練の反省から見えてきた不審者対応の課題について話し合い、非常時に速やかな行動がとれるよう検討、実施していく
		(2)健康教育の充実	様々な感染症に対する理解を深め、適切に対応する	B	B	今年度、中田小学校への垂直避難に取り組んだ。今後、全園児が避難することを想定して、学校側も対応していく必要がある。自治会にも園児が小学校へ避難してくることを意識し浸透させたい課題である。	様々な感染症に対する対処方法について確認し、全職員が感染症に対する理解を深めて適切に対応できるようにする。また、感染症の兆しを見逃さず、感染を最小限に留めるように対応をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	研修を通して一人一人に合った関わり方を学び、職員間で共有し、同じ手立てで関わる	支援児の情報や支援方法についてまとめたものを書面にして会議で報告することで職員への共通理解を図った。支援児のグループ活動(きりんの会)を実施し、きりんの会便りを作成することで保護者や職員に活動内容やねらいについて発信した。また、特別支援の公開保育を行いより良い支援方法について意見を出し合うこととなった。	A	A	今年度、中田小学校への垂直避難に取り組んだ。今後、全園児が避難することを想定して、学校側も対応していく必要がある。自治会にも園児が小学校へ避難してくることを意識し浸透させたい課題である。	職員が特別支援におけるスキル向上のため、きりんの会や支援公開保育、特別支援の園内研修に多くの職員が参加できるようにして支援方法について園全体で学んでいく
		(1)組織体制の充実	職員会議や園内研修での学びを周知し、職員間の連携を強化する	職員会議や研修での学びを書面により即日配付して、全職員が周知できるよう努めた。職種や勤務体制の異なる職員の意見を聞く機会となるよう小グループでの会議を設け、職員間の連携を図った。また「昼の打合せ」を行うことで様々な情報を多くの職員に直接伝達できるようになり、その後、参加していない職員に書面と共に伝えるようになった。	B	A	職員の勤務時間に差ができるのは、永遠の課題である。それを克服するための努力が垣間見られる。交代時に勤務時間の重なりを作り、勤務時間内に情報共有する時間を設けることが出来るようになる良い。毎月1回の研修を設け、全てのクラスの公開保育を行うという熱心な取り組みに感心する。グループワークを取り入れて保育者同士が語り合う機会を大切にしているなど、工夫が見られた。
6 研修	(1)研修体制の充実	研修体制を組織化し、研修主任を中心に園内研修を行う中で活発な意見を出し合い、より効率的に行う	研修部で園内研修の進め方や内容を事前に検討、少人数のグループワークに研修部員が入ること、短い時間でも活発な意見交換を行うことができた。研修部員が研修の進め方や方法などを理解して役割分担したことで、効率的に研修が行われた。また、研修テーマの達成に向けて、日々の手立てを意識しながら保育を行っていたか「月の振り返り」を活用して確認し、見えてきた課題について園内研修で見えを出し合うことで園全体の学びに繋がった	B	B	今年度、中田小学校への垂直避難に取り組んだ。今後、全園児が避難することを想定して、学校側も対応していく必要がある。自治会にも園児が小学校へ避難してくることを意識し浸透させたい課題である。	子ども達にとってより魅力的な環境について考え、保育者一人一人の専門性を向上させていくことで、教育保育をより楽しめと感じられるよう保育を語る場を増やしていく。新たな研修テーマや日々の手立てを全職員に周知し、子どもの伸ばしたい資を共有し、研修を進んでいく。
		(1)教育・保育環境の充実	遊びの様子や子どもの思いから興味関心を捉え、タイムリーに環境を整える	日々の子どもの姿や遊びの様子から興味関心を捉え、子どもの思いに合わせた遊びの環境を瞬時に用意しようとする保育者の意識が高まった。また毎月、月のあらわれと次月の遊びについて検討を重ね、タイムリーな環境構成を目指していたことで、子ども達が自ら遊びを進めていく姿が多く見られるようになった	B	B	保育者や子どもの発達を捉え、どのような成長をしていくのか、どんな経験をさせたいのかという願いをもとに見通しを持ち、遊びが継続していくための教育保育の充実を図る
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの発達や日々の様子を分かりやすく伝えて保護者と共有し、子どもの育ちを支えていく	連絡帳や郵便、毎月のねらいに沿ったポートフォリオ等で子どもの生活や遊びの様子を分かりやすく伝えていった。課題としていた保護者参加行事は、コロナ禍でも今出来る方法を検討して、運動会や生活発表会等を開催した。また年長組は個人面談を行い、成長の様子や就学中に向けて検討組むことと保護者と共有した。他の学年においても参加会や参観会を行う中で保護者に子ども達の発達の様子や日々の姿等を伝えていった。	A	A	園の様子を様々な方法で伝える努力をしている。年々、その方法が多岐に渡っているように感じて大変ありがたく思う。	継続して子どもの日々の様子をポートフォリオやお便りなどで伝えていく。伝統行事や四季の文化について発信し、園と家庭の教育保育を繋いでいく。保護者より園の教育保育に関心を持ち、理解していただける発信方法について検討し、実施していく
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流や公開保育を行い、情報交換や連携を図る	中田の森探検や運動会練習の見学等を通じ、年長児より小学校を身近に感じられるようになり、就学への期待へと繋がった。公開保育では近隣の小学校や園の先生方に参観いただき、子ども達の育ちを共有する機会となった。その中でもこども園における『遊びの中の学び』と小学校での『自覚的な学び』について考え、理解するきっかけとなった。	B	B	小学校としてもアフターコロナやキッズクラブの廃更や小学校でのスタートカリキュラムの検討など、様々な面で連携協力していきたい。互いに活動や授業を覗いたり、小学校の広い運動場を使用したりできたらよい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の園として親しまれるよう、地域との交流や様々な人と関わる機会を作る	絵本の読み聞かせ、囲碁教室、環境学習、おしゃべりサロンなど、ボランティアの方の協力のもと活動を行った。地域の様々な方と触れ合う中で、子ども達も親しみを持って関わる姿が見られた。S型サービス「いきいき」は参加方法を考えて3年ぶりに実施、参加者の笑顔が子ども達の喜びとなった。	A	A	地域住民との交流や連携が出来ていて素晴らしい。コロナ禍ではあるが、必要な活動を工夫しながら行っていく。子ども達にとって、この年齢の1年は二度と戻ってこない年だから	コロナ禍で実施できる方法を検討し、今後も“地域の園”として活躍できるよう取り組みを継続していく